

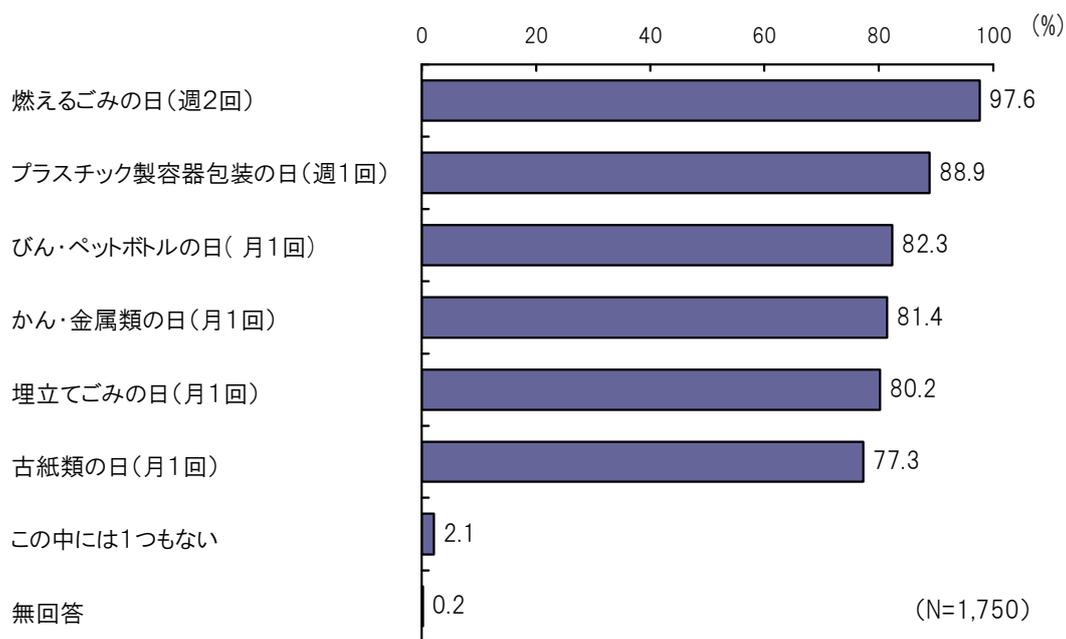
## IV 調查結果

## IV 調査結果

### ごみの減量化とリサイクル推進について

#### (1) ごみ収集日の認知度

問1 あなたは、お住まいの地区の「ごみ収集日」を知っていますか。次の中から知っているものをすべて選んでください。(M. A.)

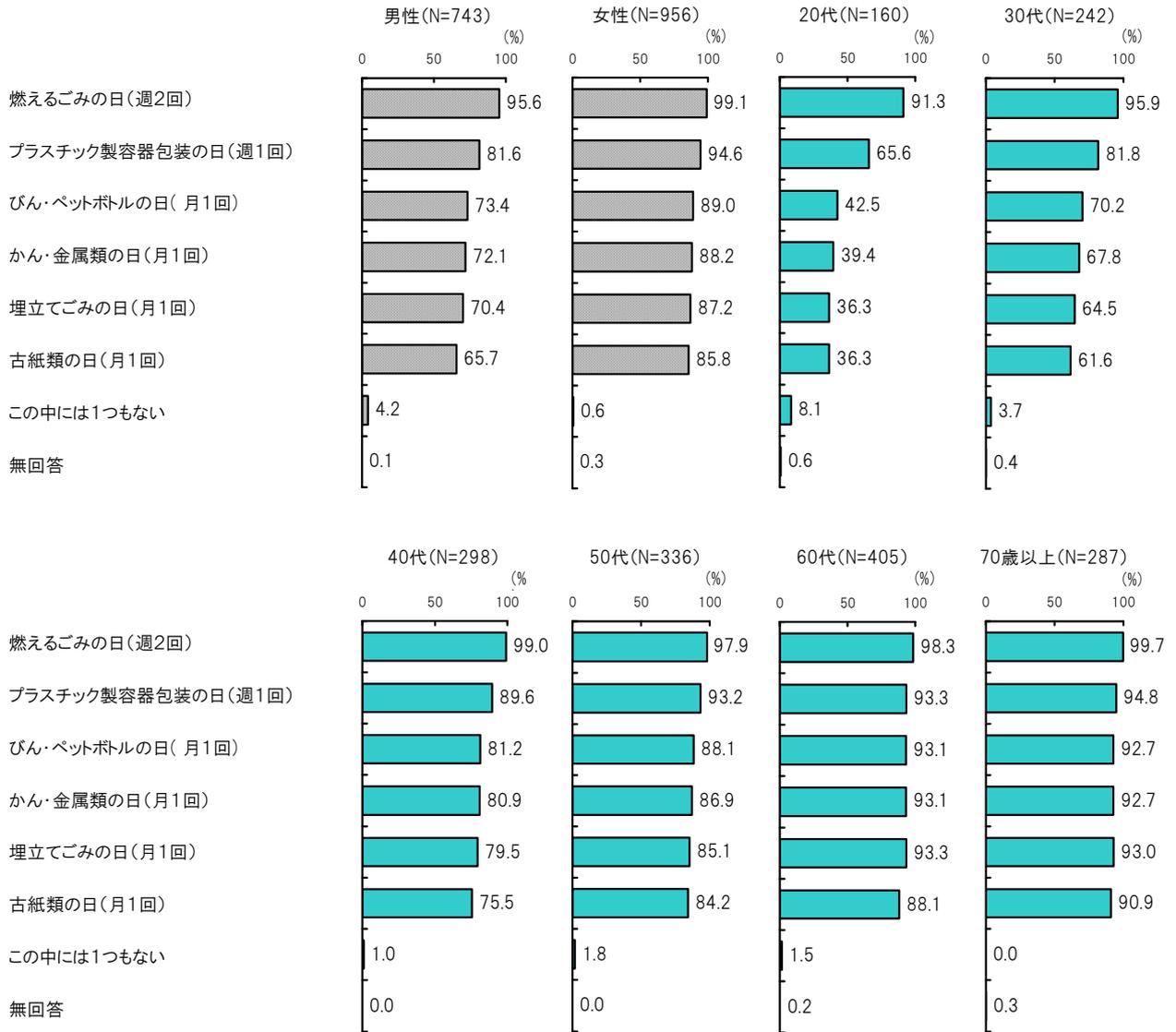


居住地区における「ごみ収集日」の認知状況を尋ねたところ、「燃えるごみの日」の認知率が97.6%と最も高く、次いで「プラスチック製容器包装の日」が88.9%となっている。「びん・ペットボトルの日」「かん・金属類の日」「埋立てごみの日」についても8割を越す人が認知している。

年代別で見ると、「燃えるごみの日」についてはいずれの年代も9割以上の認知率となっている。その他の項目については、20代と30代で認知率が低くなっており、特に20代では「びん・ペットボトルの日」「かん・金属類の日」「埋立てごみの日」「古紙類の日」のいずれも5割に満たない認知率となっている。

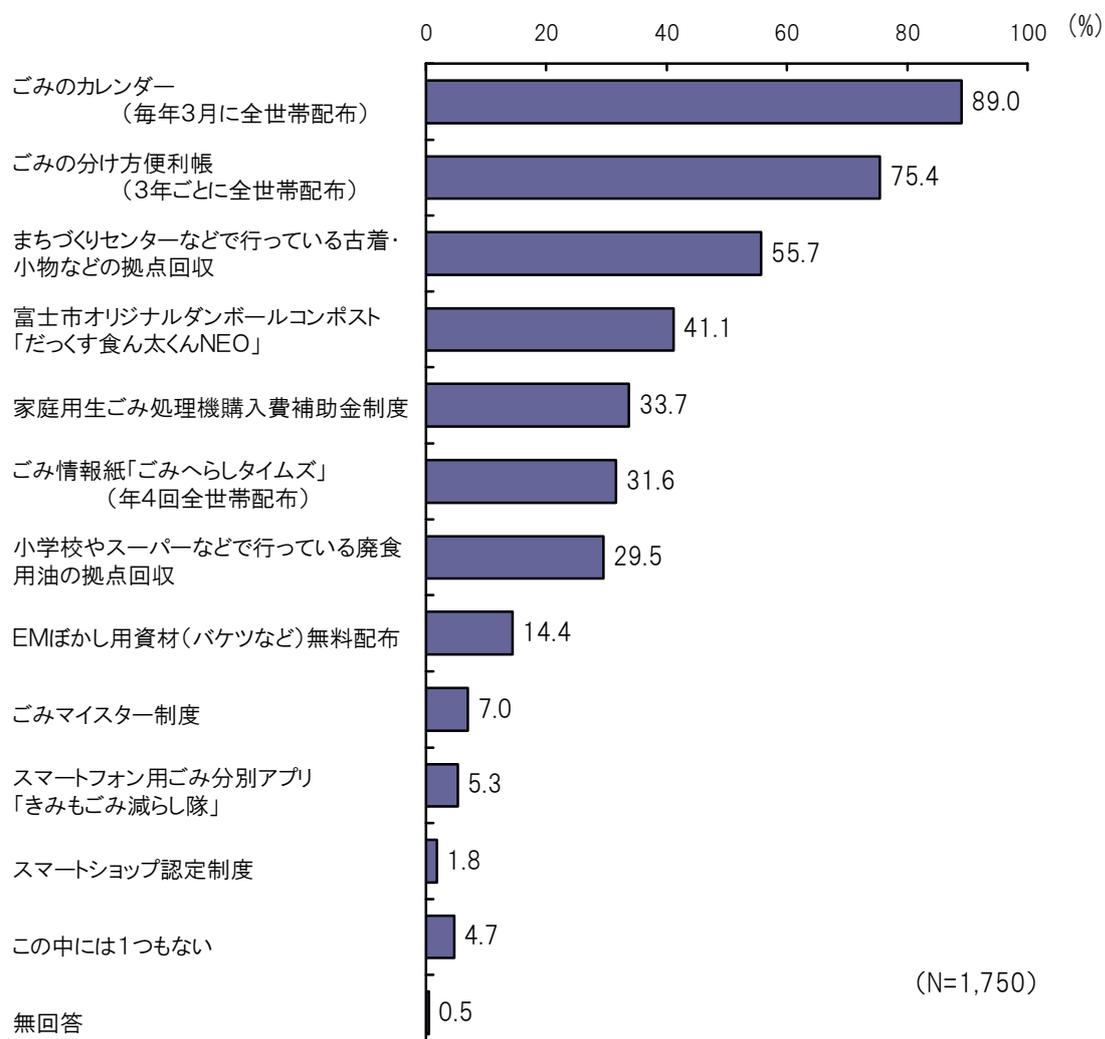
IV 調査結果

【性別・年代別】



## (2) 「ごみ減量やリサイクル推進」に関わる市の施策についての認知度

問2 市が取り組んでいる「ごみ減量やリサイクル推進」についての施策の中で、あなたが知っているものをすべて選んでください。(M. A.)

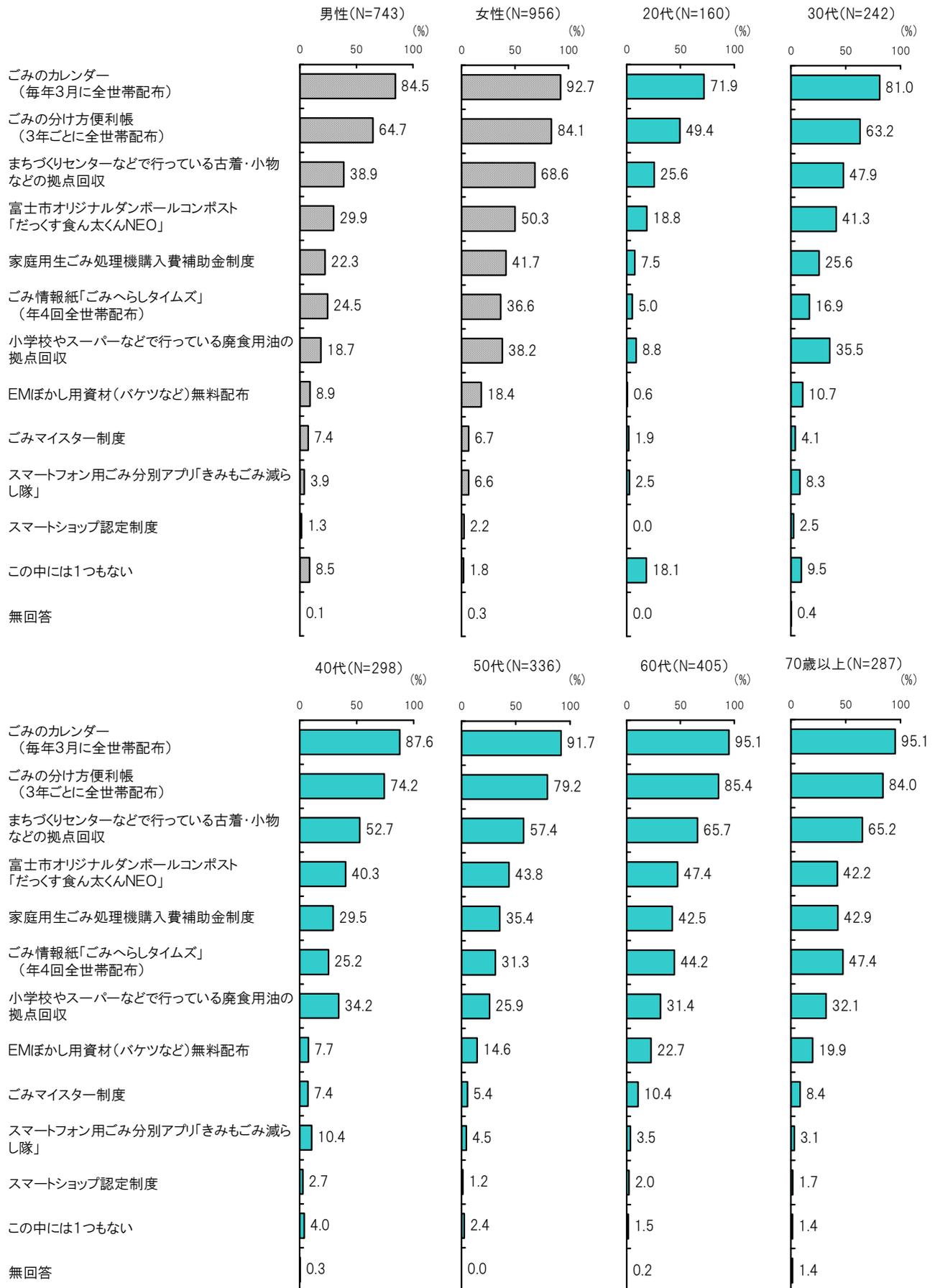


「ごみ減量やリサイクル推進」に関わる市の施策についての認知状況を尋ねたところ、「ごみのカレンダー」が89.0%と最も高く、次いで「ごみの分け方便利帳」が75.4%、「まちづくりセンターなどで行っている古着・小物などの拠点回収」が55.7%となっている。一方、「ごみマイスター制度」「スマートフォン用ごみ分別アプリ『きみもごみ減らし隊』」「スマートショップ認定制度」については、1割に満たない認知率となっている。

年代別でみると、いずれの年代も「ごみカレンダー」が最も高く、30代以上では8割以上が認知している。各項目とも、年代が上がるにつれて認知率が高くなる傾向にあるが、「小学校やスーパーなどで行っている廃食用油の拠点回収」については小学生の親世代にあたる30代、40代が他の年代と比べて高くなっている。

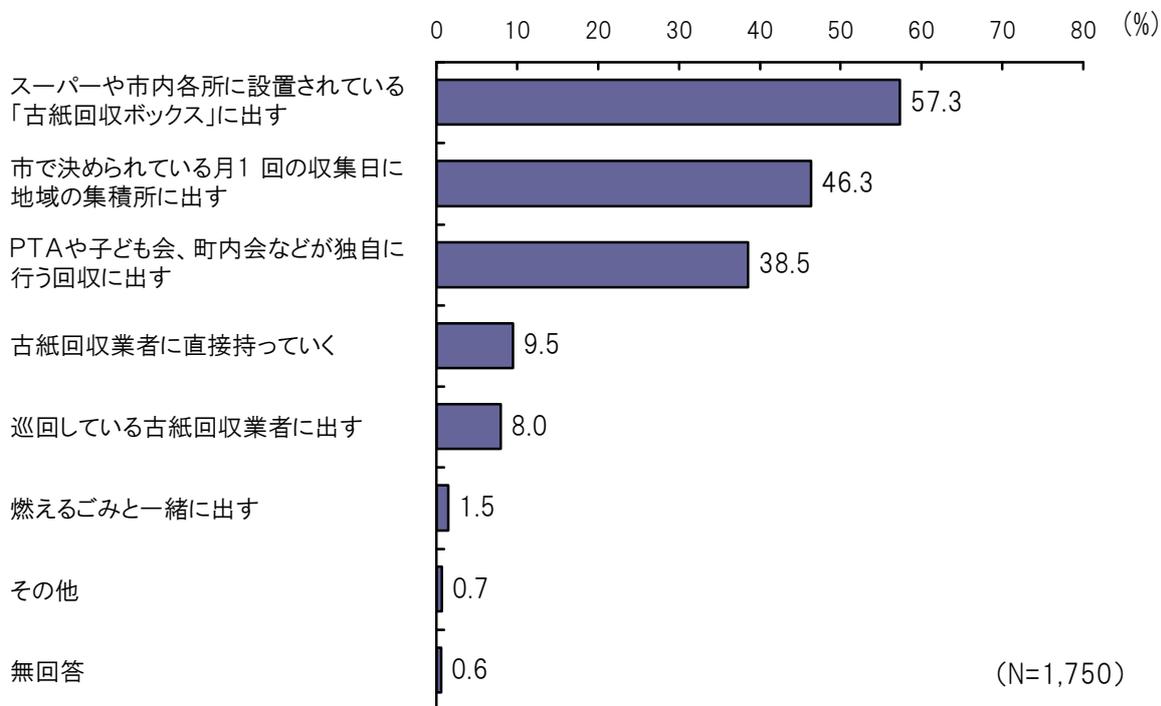
IV 調査結果

【性別・年代別】



## (3) 古紙の処理方法

問3 あなたのお宅では、古紙をどのようにして処理していますか。次の中から主な処理方法を 2つ以内 で選んでください。(M. A.)

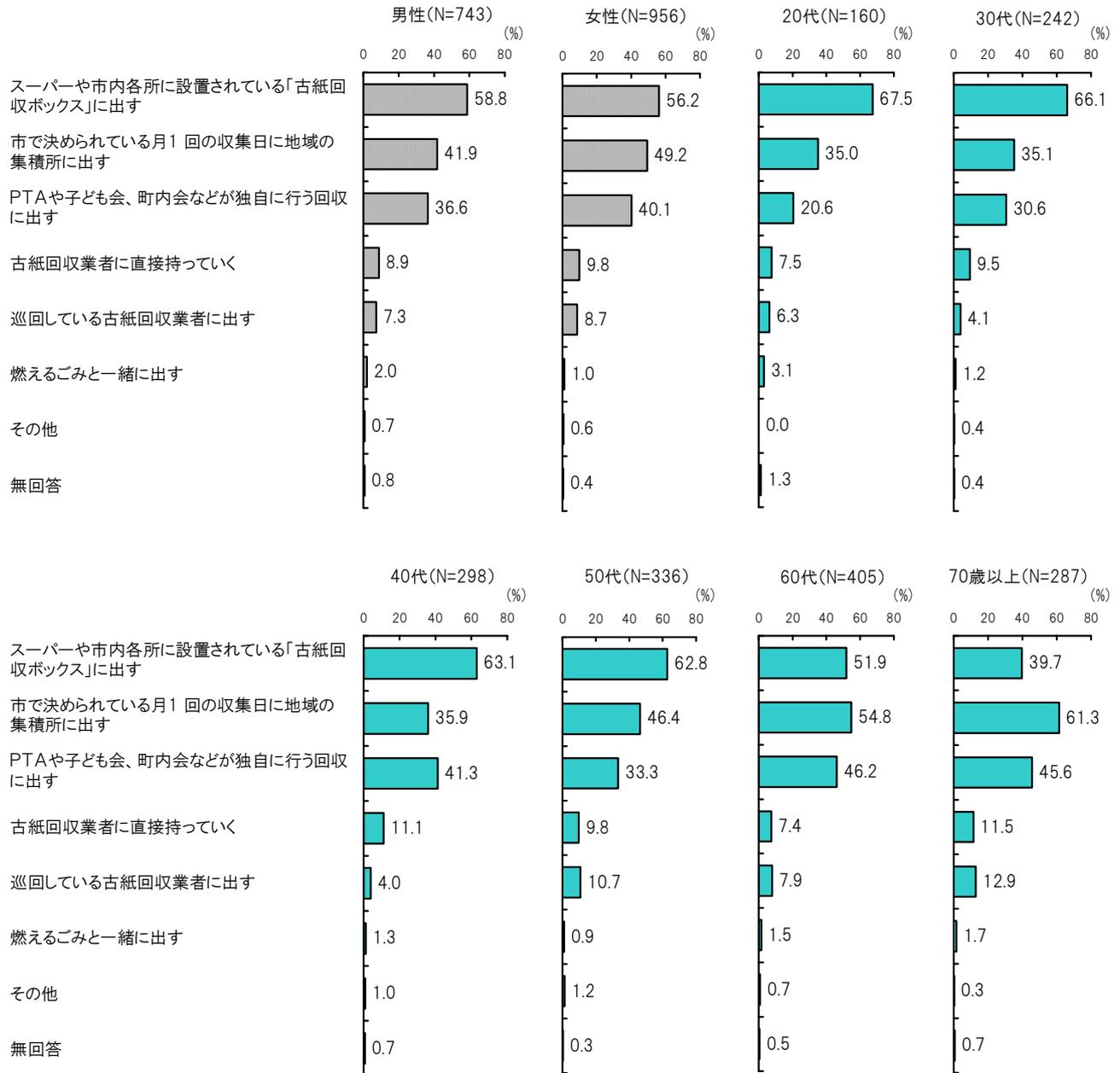


自宅での古紙の処理状況について尋ねたところ、「スーパーや市内各所に設置されている『古紙回収ボックス』に出す」が57.3%で最も高く、次いで「市で決められている月1回の収集日に地域の集積所に出す」が46.3%、「PTAや子ども会、町内会などが独自に行う回収に出す」が38.5%となっている。

年代別でみると、20～50代では「スーパーや市内各所に設置されている『古紙回収ボックス』に出す」が最も高く、特に20～40代では「市で決められている月1回の収集日に地域の集積所に出す」に20ポイント以上の差をつけている。60代、70代では「市で決められている月1回の収集日に地域の集積所に出す」が最も高くなっている。

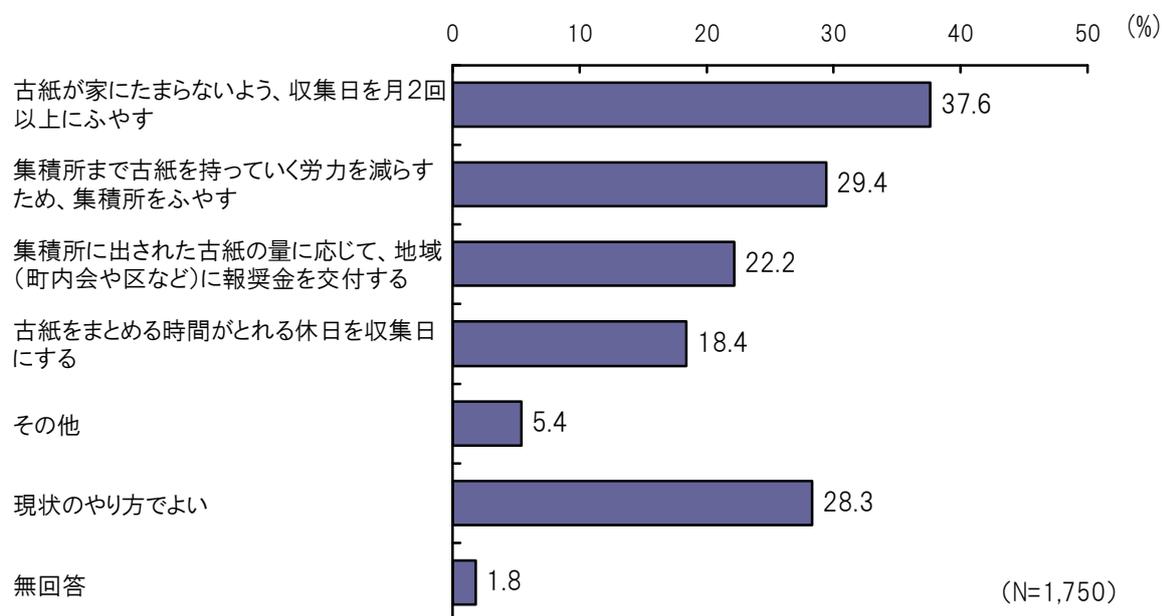
IV 調査結果

【性別・年代別】



## (4) 市による古紙収集量をふやすために有効な手段

問4 市による地域の集積所での古紙収集量をふやすためには、どのようにしたらよいと思いますか。あなたが有効だと思うものを2つ以内で選んでください。(M. A.)

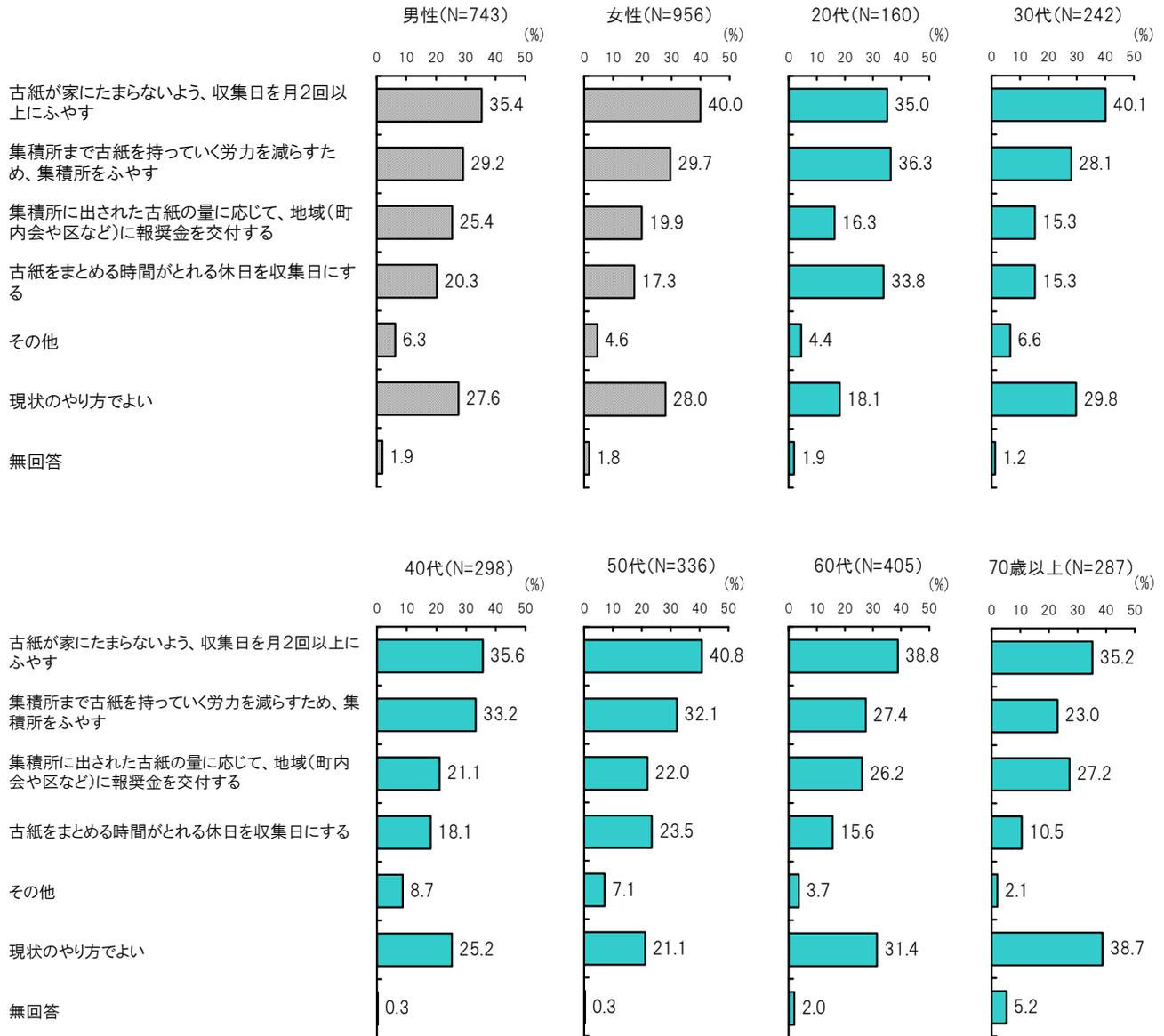


市による古紙収集量をふやすための有効な手段について尋ねたところ、「古紙が家にたまらないよう、収集日を月2回以上にふやす」が37.6%で最も高く、次いで「集積所まで古紙を持っていく労力を減らすため、集積所をふやす」が29.4%、「集積所に出された古紙の量に応じて、地域(町内会や区など)に報奨金を交付する」が22.2%と続く。また、「現状のやり方でよい」は28.3%となっている。

年代別でみると、「集積所をふやす」は年代が低いほど、「地域(町内会や区など)に報奨金を交付する」は年代が高いほど、数値が高くなっている。

## IV 調査結果

### 【性別・年代別】

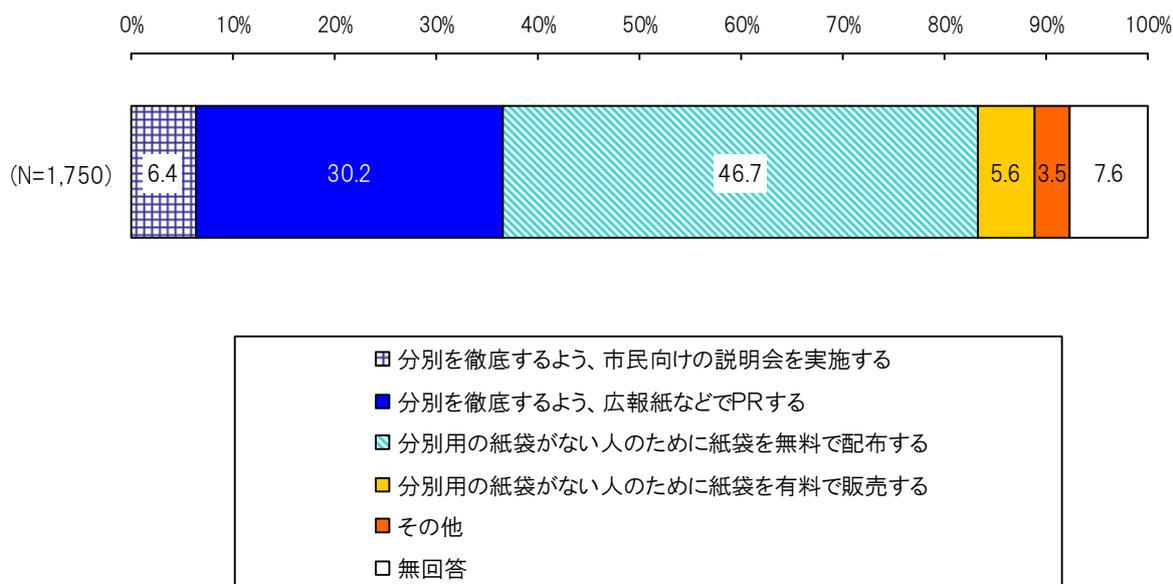


## (5) 「その他の紙」の分別を進めるための方策

問5 燃えるごみの中には、リサイクルが可能な「※その他の紙」が多く含まれています。「その他の紙」の分別をさらに進めるにはどのようにしたらいいと思いますか。次の中からあなたが最もよいと思う方法を1つだけ選んでください。

※「その他の紙」とは

菓子や製品の外箱、封筒、カタログ、パンフレットなど、新聞・雑誌・ダンボール以外の再生可能な紙類。平成18年度から古紙類の1品目として回収している。小さいものは家庭にある紙袋に入れて、大きいものは紙ひもで縛って出す。

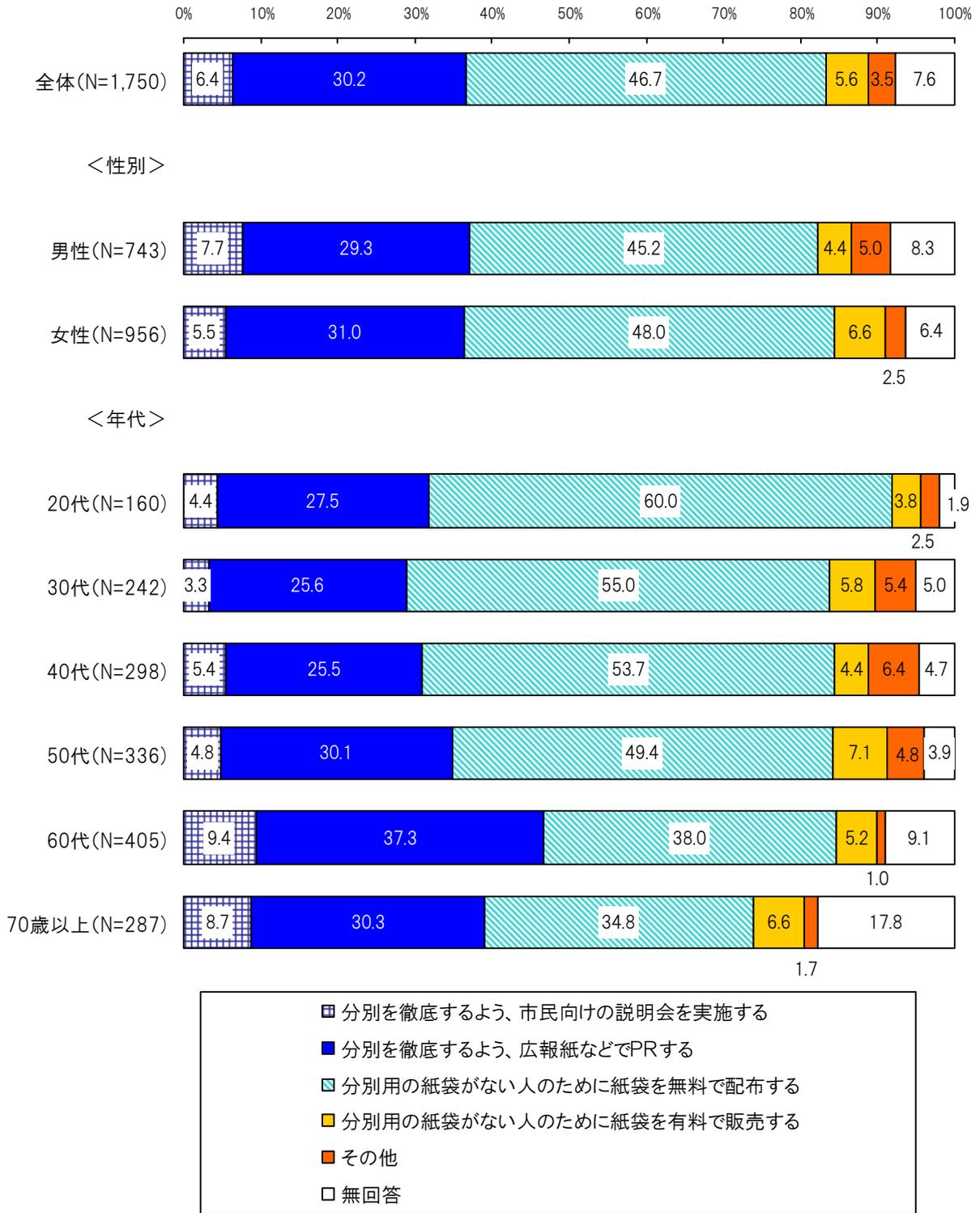


「その他の紙」の分別を進めるために必要と思われる方策について尋ねたところ、「分別用の紙袋がない人のために紙袋を無料で配布する」が46.7%で最も高く、次いで「分別を徹底するよう、広報紙などでPRする」が30.2%となっており、この2項目で8割近くを占めている。

年代別でみると、「分別用の紙袋がない人のために紙袋を無料で配布する」は特に20～40代で5割を越す高い数値となっている。一方、「分別を徹底するよう、広報紙などでPRする」については、50代以上で3割以上と高くなっている。

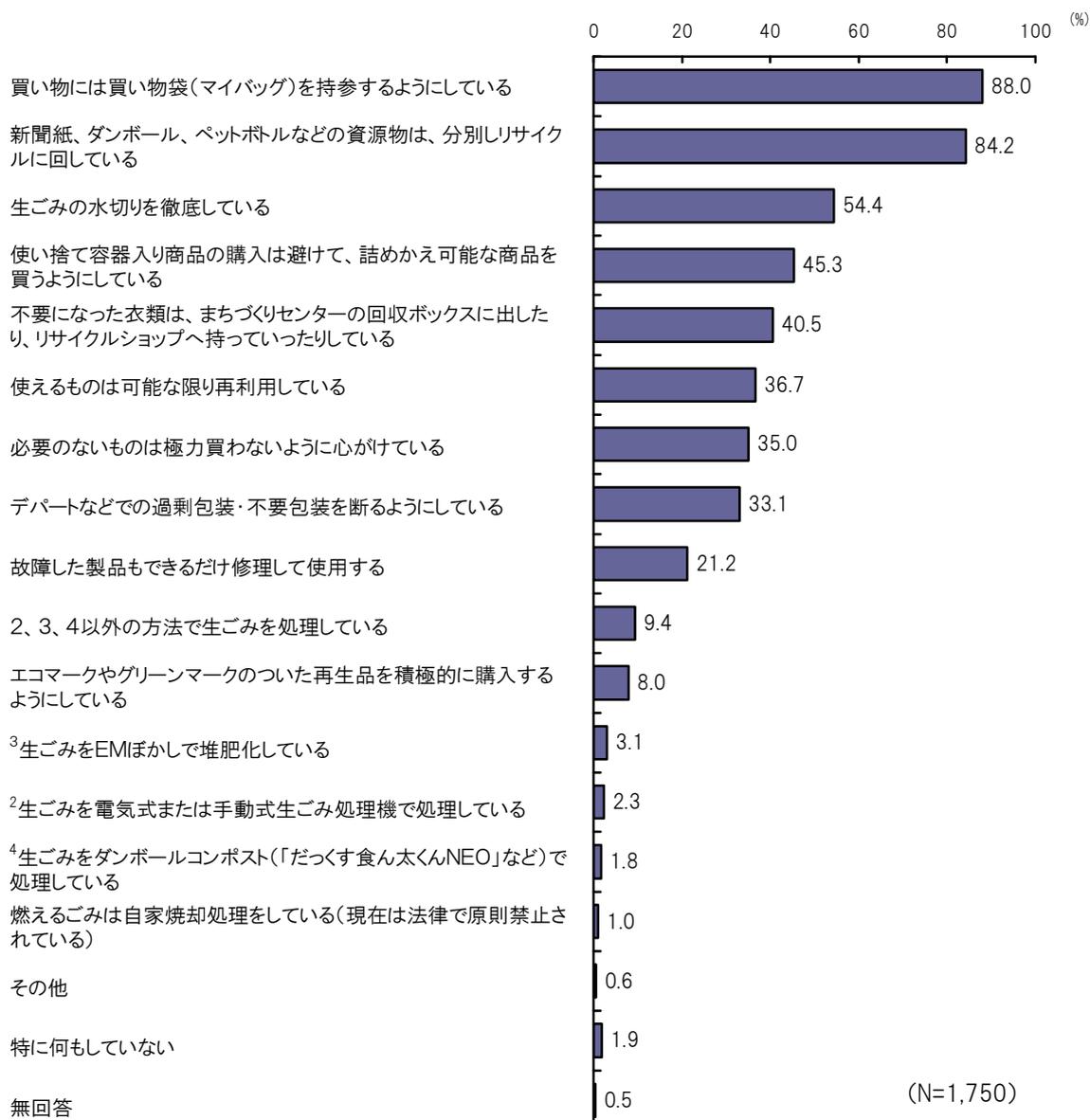
IV 調査結果

【性別・年代別】



## (6) 家庭におけるごみ減量の工夫

問6 あなたのお宅では、ごみの量を減らすためにどのような工夫をしていますか。次の中から当てはまるものをすべて選んでください。(M. A.)



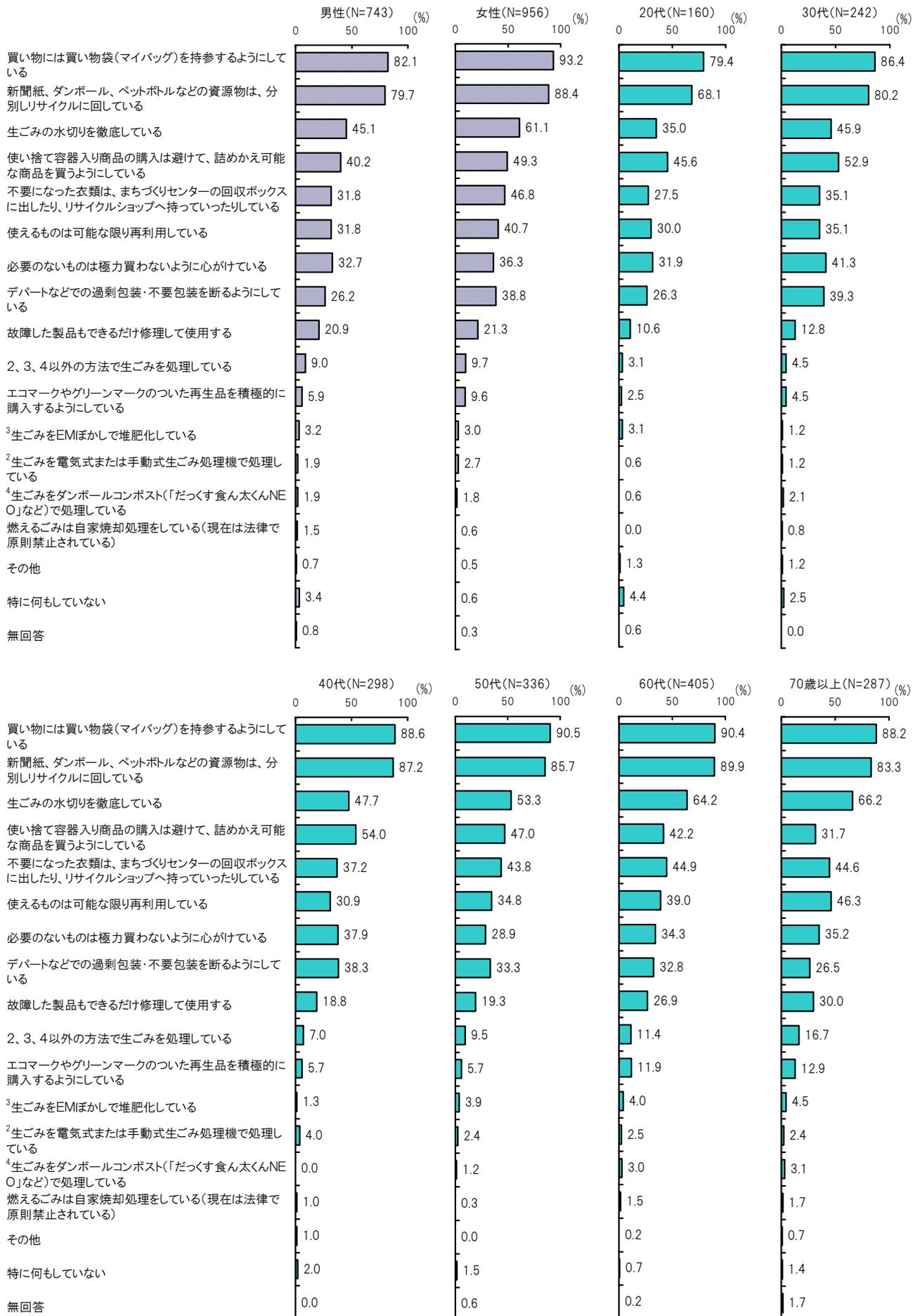
家庭におけるごみ減量の工夫について尋ねたところ、「買い物には買い物袋(マイバッグ)を持参するようにしている」が88.0%、「新聞紙、ダンボール、ペットボトルなどの資源物は、分別しリサイクルに回している」が84.2%と、この2項目が8割を越す高い数値となっている。次いで「生ごみの水切りを徹底している」が54.4%、「使い捨て容器入り商品の購入は避けて、詰めかえ可能な商品を買うようにしている」が45.3%と続く。「生ごみをEMぼかしで堆肥化している」「生ごみを電気式または手動式生ごみ処理機で処理している」「生ごみをダンボールコンポスト(「だっくす食ん太くんNEO」など)で処理している」などはいずれも5%に満たず、生ごみの減量化、堆肥化については低い実施率となっている。

年代別で見ると、「買い物には買い物袋(マイバッグ)を持参するようにしている」および「新聞紙、ダンボール、ペットボトルなどの資源物は、分別しリサイクルに回している」については、30代以上で

#### IV 調査結果

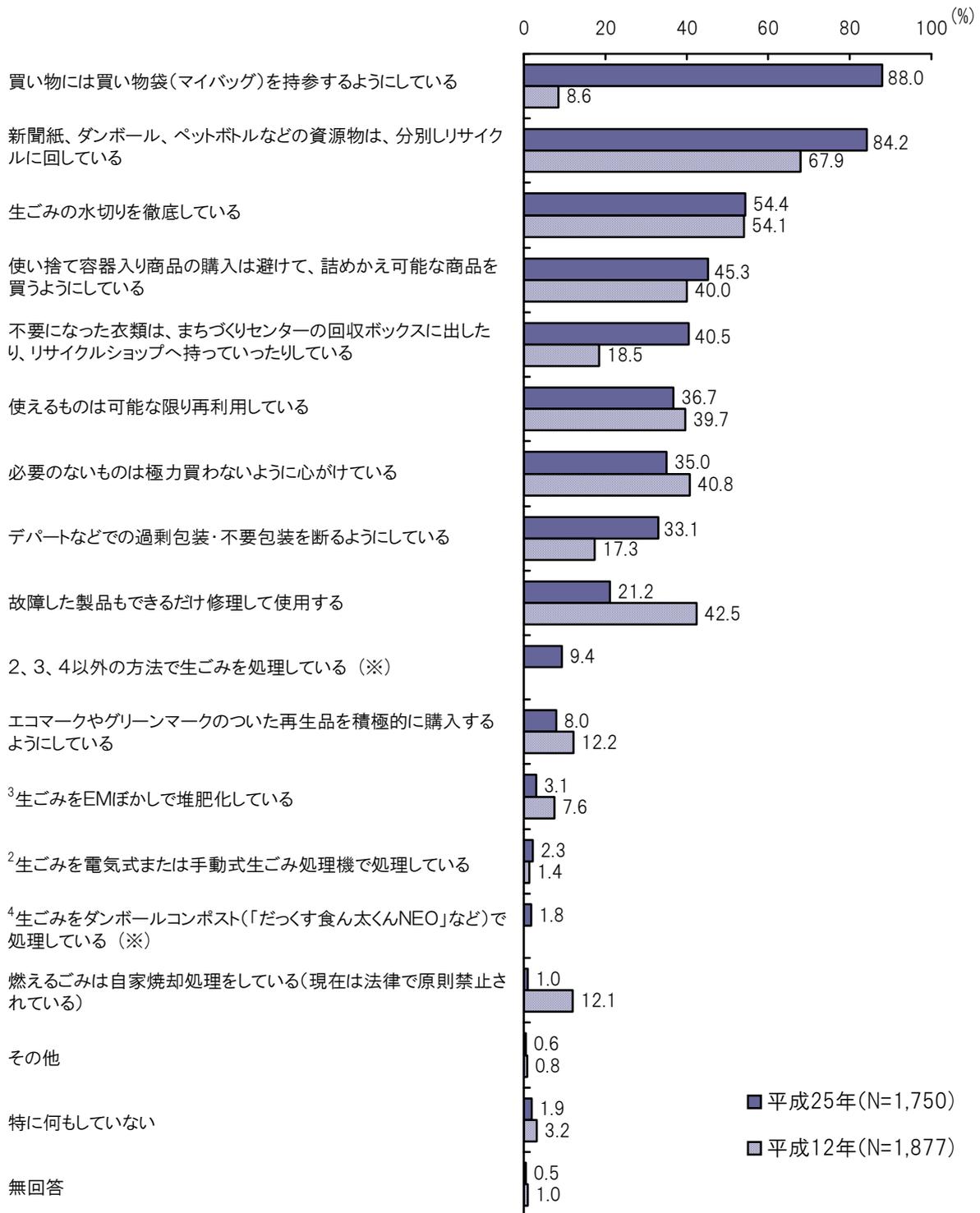
はすべての年代で8割を越す高い実施率となっている。「生ごみの水切りを徹底している」については、年代が上がるにつれて高くなっているが、「使い捨て容器入り商品の購入は避けて、詰めかえ可能な商品を買うようにしている」は30代、40代で高い実施率となっている。

【性別・年代別】



<調査結果の経年比較>

平成12年の調査結果と比較して、「買い物には買い物袋（マイバッグ）を持参するようにしている」が8.6%から88.0%と79.4ポイントの大幅増となっている。その他にも「新聞紙、ダンボール、ペットボトルなどの資源物は、分別しリサイクルに回している」が+16.3ポイント、「不要になった衣類は、まちづくりセンターの回収ボックスに出したり、リサイクルショップへ持っていったりしている」が+22.0ポイント、「デパートなどでの過剰包装・不要包装を断るようにしている」が+15.8ポイント、などが顕著に増加している。一方、「故障した製品もできるだけ修理して使用する」は平成12年の42.5%から21.2%と、21.3ポイント減少している。



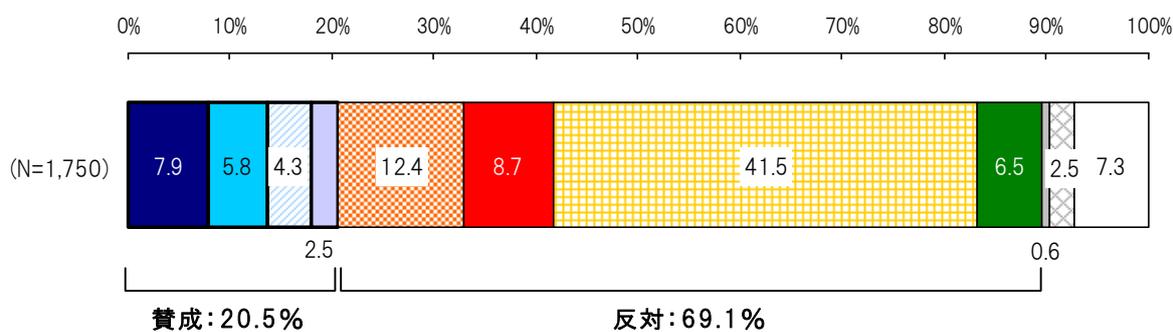
(※)は平成12年調査の選択肢に含まれない。

## (7) ごみ処理の有料化についての賛否

問7 ごみの減量化や負担の公平化を図るために、一般家庭のごみ処理を有料化している市町村があります。\*ごみ処理の有料化についてあなたはどのように思いますか。あなたの考えに最も近いものを1つだけ選んでください。

※ごみ処理の有料化とは

指定ごみ袋の価格に処理料金を上乗せする、粗大ごみを出すときに事前に購入したシールを貼るなどの方法で、排出者が一定の処理料金を負担すること。



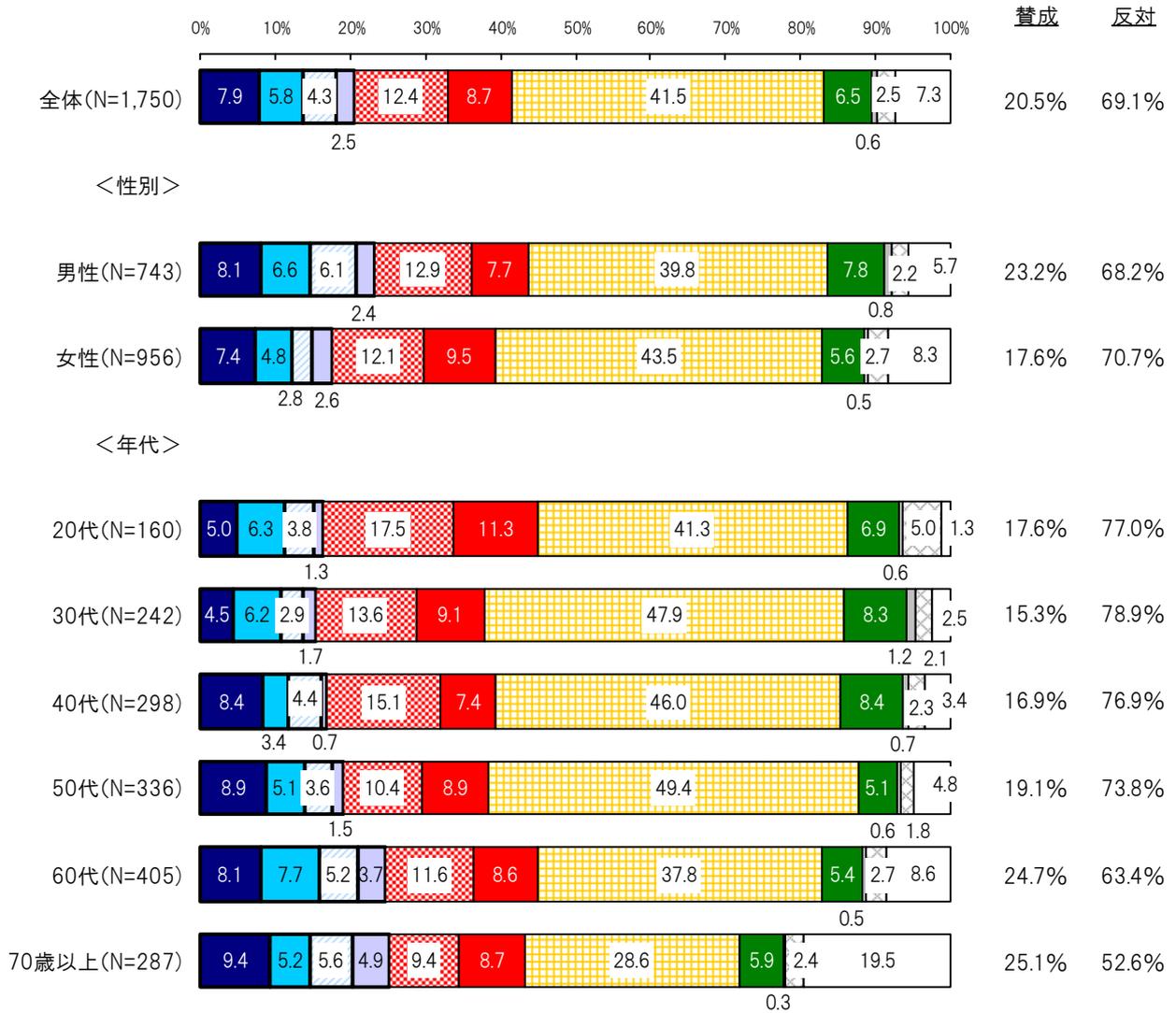
- ごみ減量化やリサイクルの推進に役立つのなら、ごみ処理の有料化もやむを得ない
- 税金だけでごみを処理するのは、ごみをたくさん出す人とそうでない人とで不公平になるので、排出量に応じたごみ処理手数料の有料化を実施すべきである
- 市民生活が多様化しているのだから、できるだけ市民が面倒でないシステムにすべきで、それにかかる経費はごみ処理の有料化で対応すべきである
- ごみ処理は個人の責任だと思うから、処理費を負担するのは当然である
- これまでも無料だったのだから、有料化には反対である
- 有料化してもごみの減量化にはならないと思うので、有料化には反対である
- 有料化すると、ごみの不法投棄がふえるなど弊害が生じるので反対である
- 理由がどうあれ、税金を払っているのだから、ごみの有料化には反対である
- その他
- わからない
- 無回答

ごみ処理の有料化についての賛否を尋ねたところ、「ごみ減量化やリサイクルの推進に役立つのなら、ごみ処理の有料化もやむを得ない」などの賛成派は20.5%にとどまっており、「これまでも無料だったのだから、有料化には反対である」などの反対派が69.1%と多数を占めている。特に反対派の中でも「有料化すると、ごみの不法投棄がふえるなど弊害が生じるので反対である」が41.5%と高い割合を占めている。

年代別でみると、年代が上がるほど賛成派の割合が高く、60代、70代では約25%にのぼる。

IV 調査結果

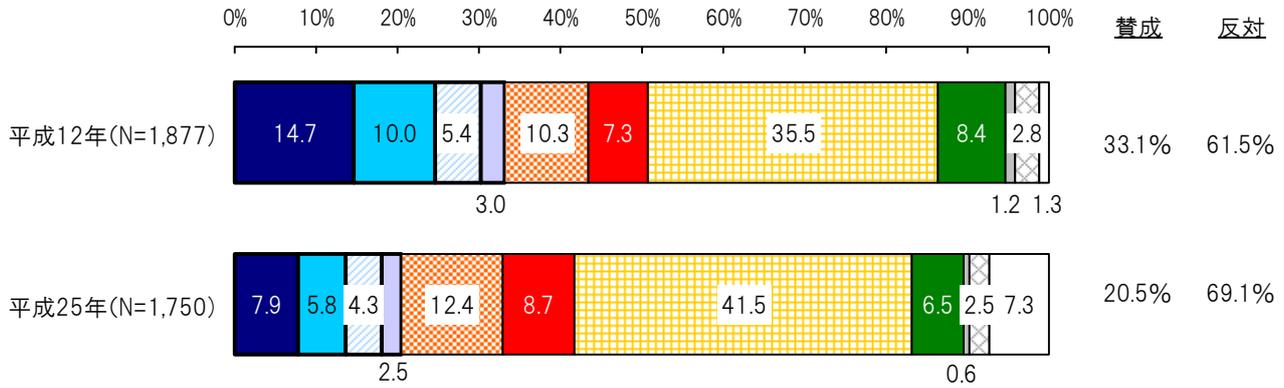
【性別・年代別】



- ごみ減量化やリサイクルの推進に役立つのなら、ごみ処理の有料化もやむを得ない
- 税金だけでごみを処理するのは、ごみをたくさん出す人とそうでない人とで不公平になるので、排出量に応じたごみ処理手数料の有料化を実施すべきである
- 市民生活が多様化しているのだから、できるだけ市民が面倒でないシステムにすべきで、それにかかる経費はごみ処理の有料化で対応すべきである
- ごみ処理は個人の責任だと思うから、処理費を負担するのは当然である
- これまでも無料だったのだから、有料化には反対である
- 有料化してもごみの減量化にはならないと思うので、有料化には反対である
- 有料化すると、ごみの不法投棄がふえるなど弊害が生じるので反対である
- 理由がどうあれ、税金を払っているのだから、ごみの有料化には反対である
- その他
- わからない
- 無回答

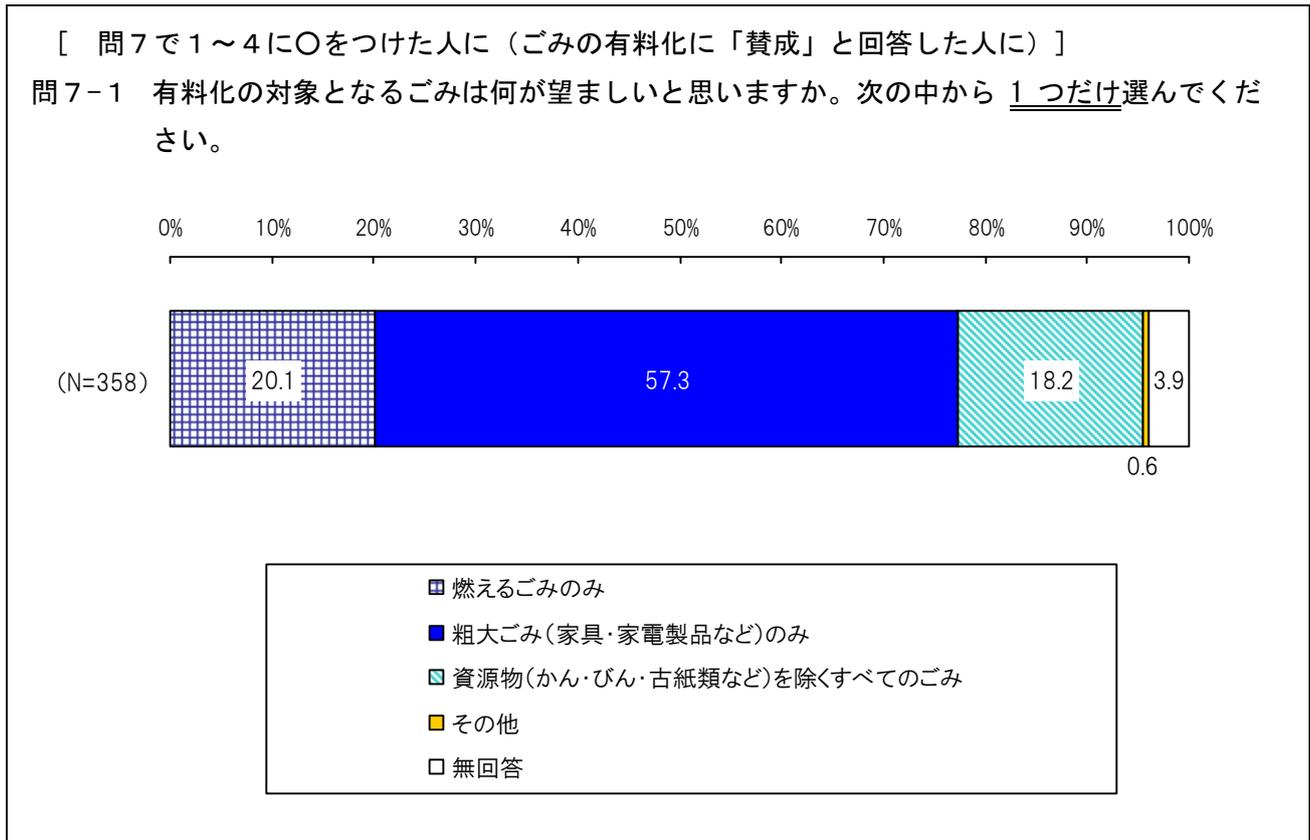
<調査結果の経年比較>

平成12年の調査結果と比較して、賛成派が33.1%から20.5%と12.6ポイントの減少となっている。中でも「ごみ減量化やリサイクルの推進に役立つのなら、ごみ処理の有料化もやむを得ない」と「税金だけでごみを処理するのは、ごみをたくさん出す人とそうでない人とで不公平になるので、排出量に応じたごみ処理手数料の有料化を実施すべきである」の2項目について大幅に減少している。一方、反対派は61.5%から69.1%と7.6ポイント増加している。



- ごみ減量化やリサイクルの推進に役立つのなら、ごみ処理の有料化もやむを得ない
- 税金だけでごみを処理するのは、ごみをたくさん出す人とそうでない人とで不公平になるので、排出量に応じたごみ処理手数料の有料化を実施すべきである
- 市民生活が多様化しているのだから、できるだけ市民が面倒でないシステムにすべきで、それにかかる経費はごみ処理の有料化で対応すべきである
- ごみ処理は個人の責任だと思うから、処理費を負担するのは当然である
- これまでも無料だったのだから、有料化には反対である
- 有料化してもごみの減量化にはならないと思うので、有料化には反対である
- 有料化すると、ごみの不法投棄がふえるなど弊害が生じるので反対である
- 理由がどうあれ、税金を払っているのだから、ごみの有料化には反対である
- その他
- わからない
- 無回答

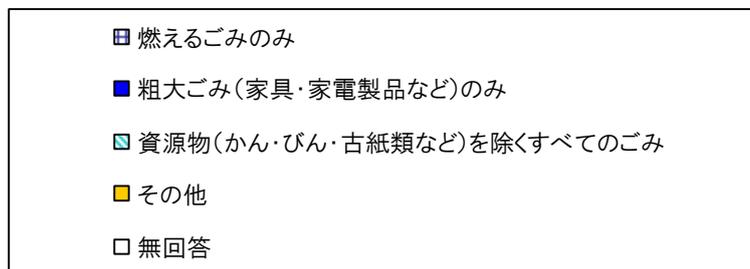
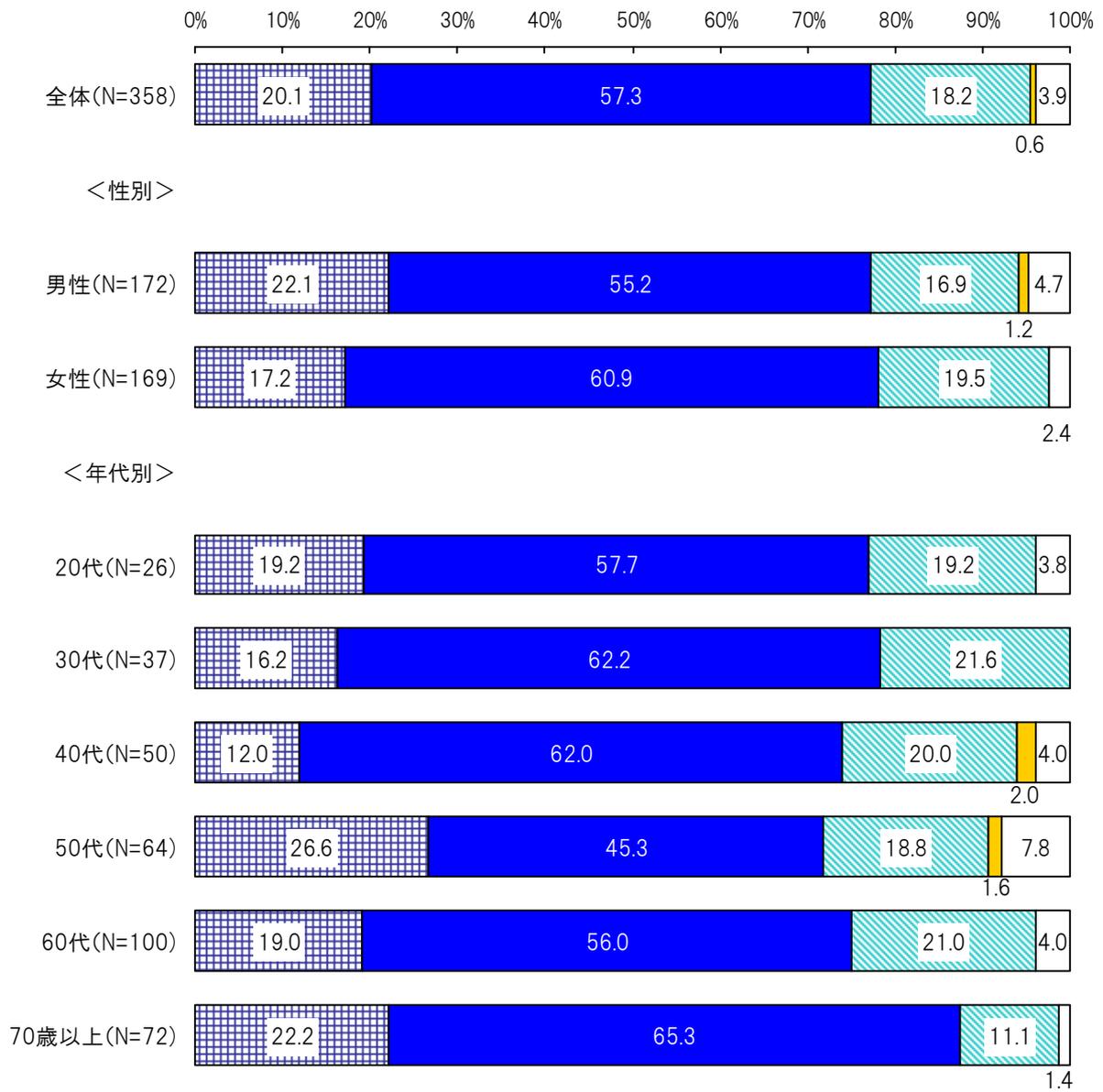
(8) 有料化に望ましいと思われるごみ



問7でごみの有料化に対して「賛成」の回答をした人に、有料化に望ましいと思われるごみについて尋ねたところ、「粗大ごみ（家具・家電製品など）のみ」が57.3%と半数以上を占めている。次いで「燃えるごみのみ」が20.1%、「資源物（かん・びん・古紙類など）を除くすべてのごみ」が18.2%となっている。

年代別で見ると、いずれの年代も「粗大ごみ（家具・家電製品など）のみ」が約半数を占めているが、50代では「燃えるごみのみ」が26.6%で他の年代と比較して高い割合となっている。

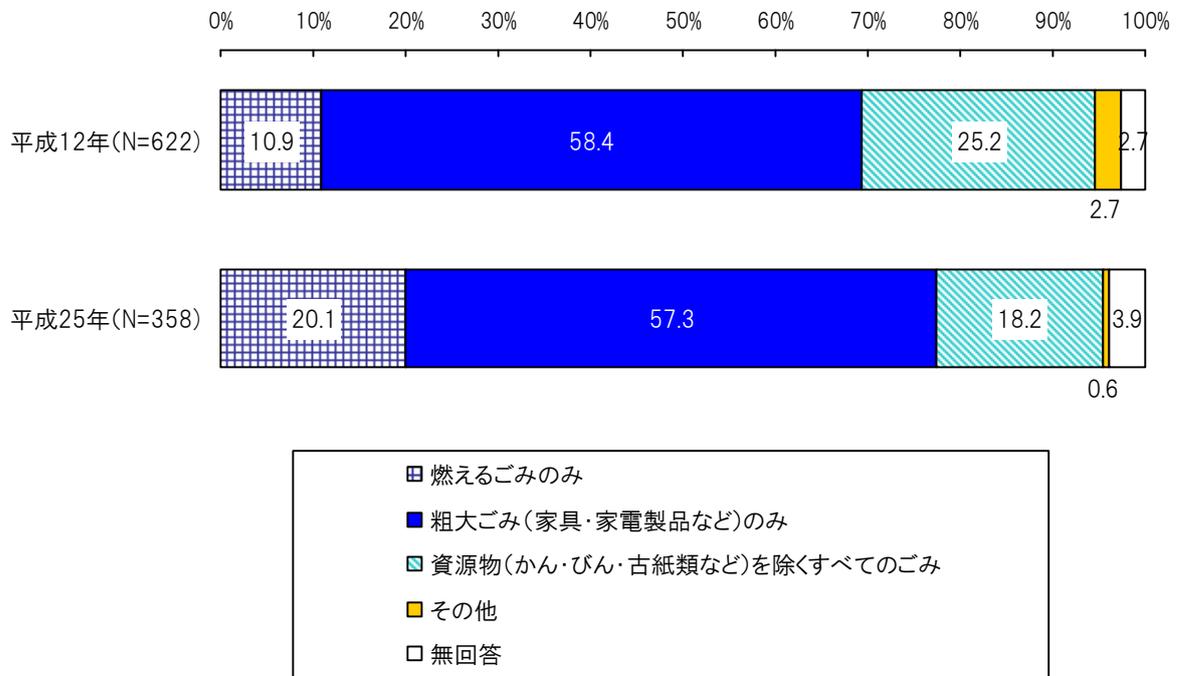
【性別・年代別】



#### IV 調査結果

##### <調査結果の経年比較>

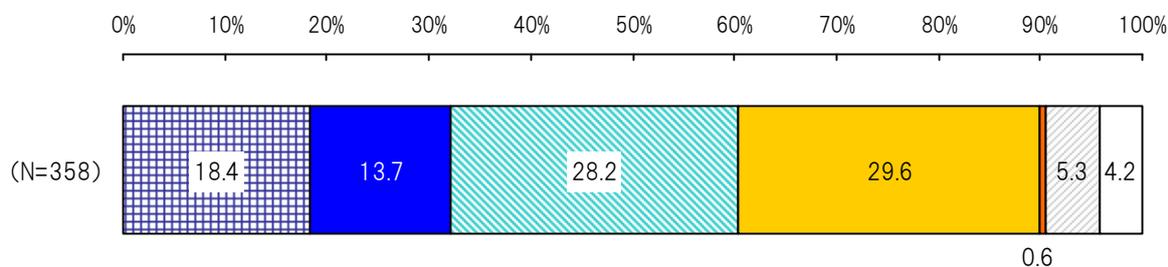
平成12年の調査と比較して、「燃えるごみのみ」が10.9%から20.1%と9.2ポイントの増加がみられる一方で、「資源物（かん・びん・古紙類など）を除くすべてのごみ」は25.2%から18.2%と7.0ポイントの減少となっている。



## (9) 有料化する場合の料金設定

[ 問7で1～4に○をつけた人に（ごみの有料化に「賛成」と回答した人に） ]

問7-2 有料化する場合の料金はどのように設定すべきだと思いますか。次の中から 1つだけ 選んでください。



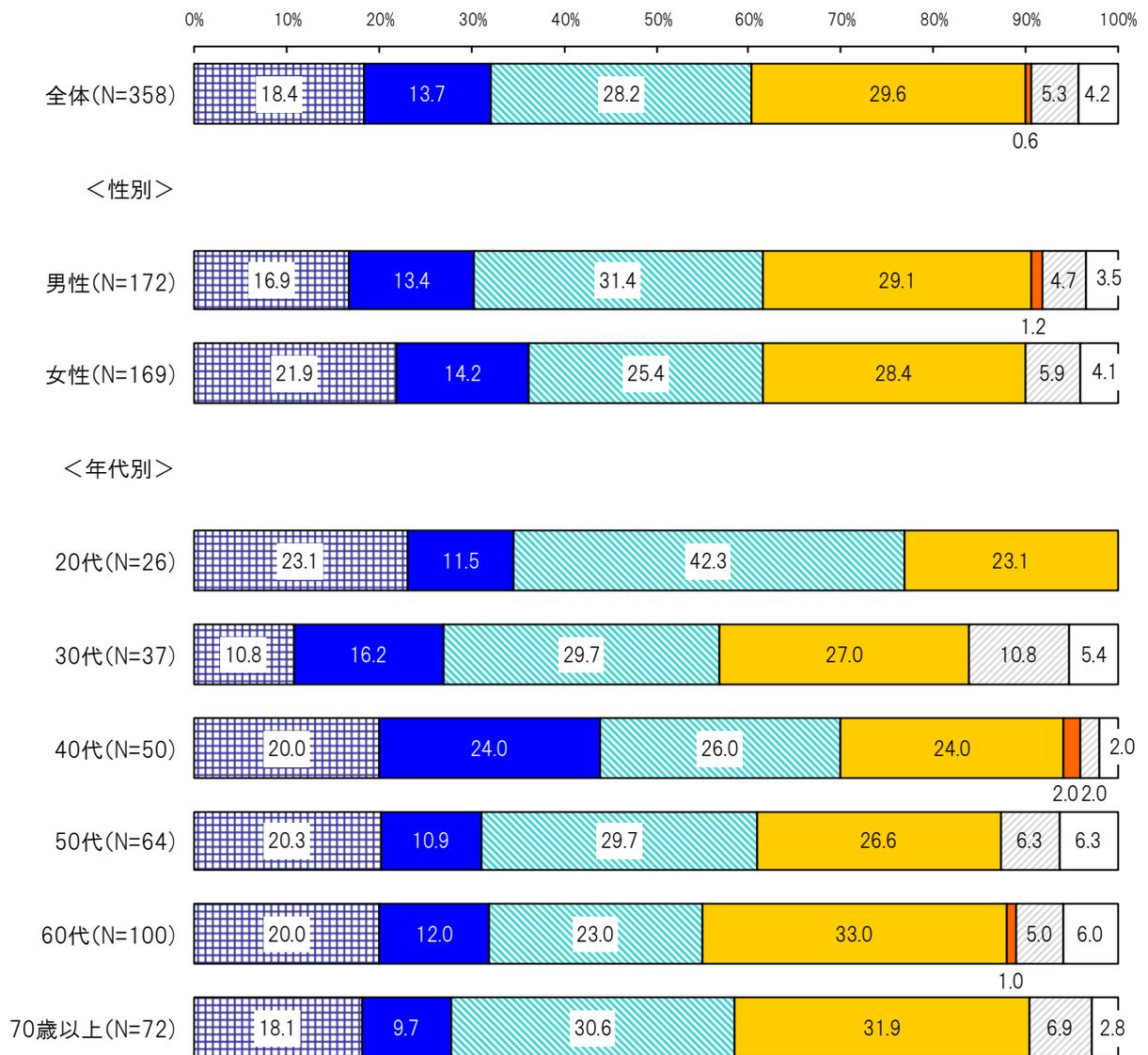
- 近隣の市町の料金を参考に、公共料金として均衡性を考慮して設定する
- 全国的な先進事例を参考に、本市と人口規模・都市形態などが類似している都市の料金体系を参考に設定する
- 実際のごみ処理に係る経費や有料袋作成費などのコストを総合的に勘案して、その一定部分を負担するという考えに基づき設定する
- 原因者(排出者)負担原則に基づき、一定量までは税金で賄うがそれ以上は排出量に応じた料金設定を行う
- その他
- わからない
- 無回答

問7でごみの有料化に対して「賛成」の回答をした人に、有料化する場合の料金設定について尋ねたところ、「原因者（排出者）負担原則に基づき、一定量までは税金で賄うがそれ以上は排出量に応じた料金設定を行う」が29.6%、「実際のごみ処理に係る経費や有料袋作成費などのコストを総合的に勘案して、その一定部分を負担するという考えに基づき設定する」が28.2%と、この2項目の割合が特に高くなっている。

年代別でみると、40代では「全国的な先進事例を参考に、本市と人口規模・都市形態などが類似している都市の料金体系を参考に設定する」も24.0%と高くなっている。

IV 調査結果

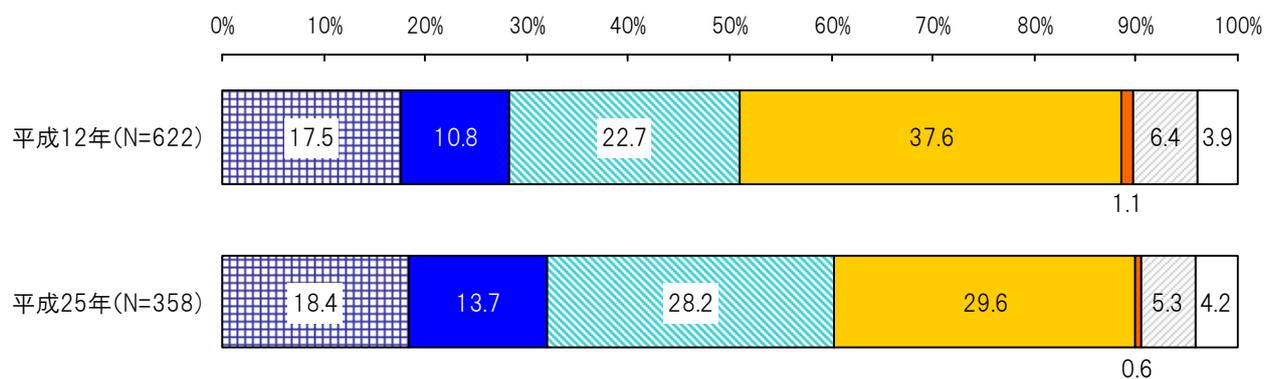
【性別・年代別】



- 近隣の市町の料金を参考に、公共料金として均衡性を考慮して設定する
- 全国的な先進事例を参考に、本市と人口規模・都市形態などが類似している都市の料金体系を参考に設定する
- 実際のごみ処理に係る経費や有料袋作成費などのコストを総合的に勘案して、その一定部分を負担するという考えに基づき設定する
- 原因者(排出者)負担原則に基づき、一定量までは税金で賄うがそれ以上は排出量に応じた料金設定を行う
- その他
- わからない
- 無回答

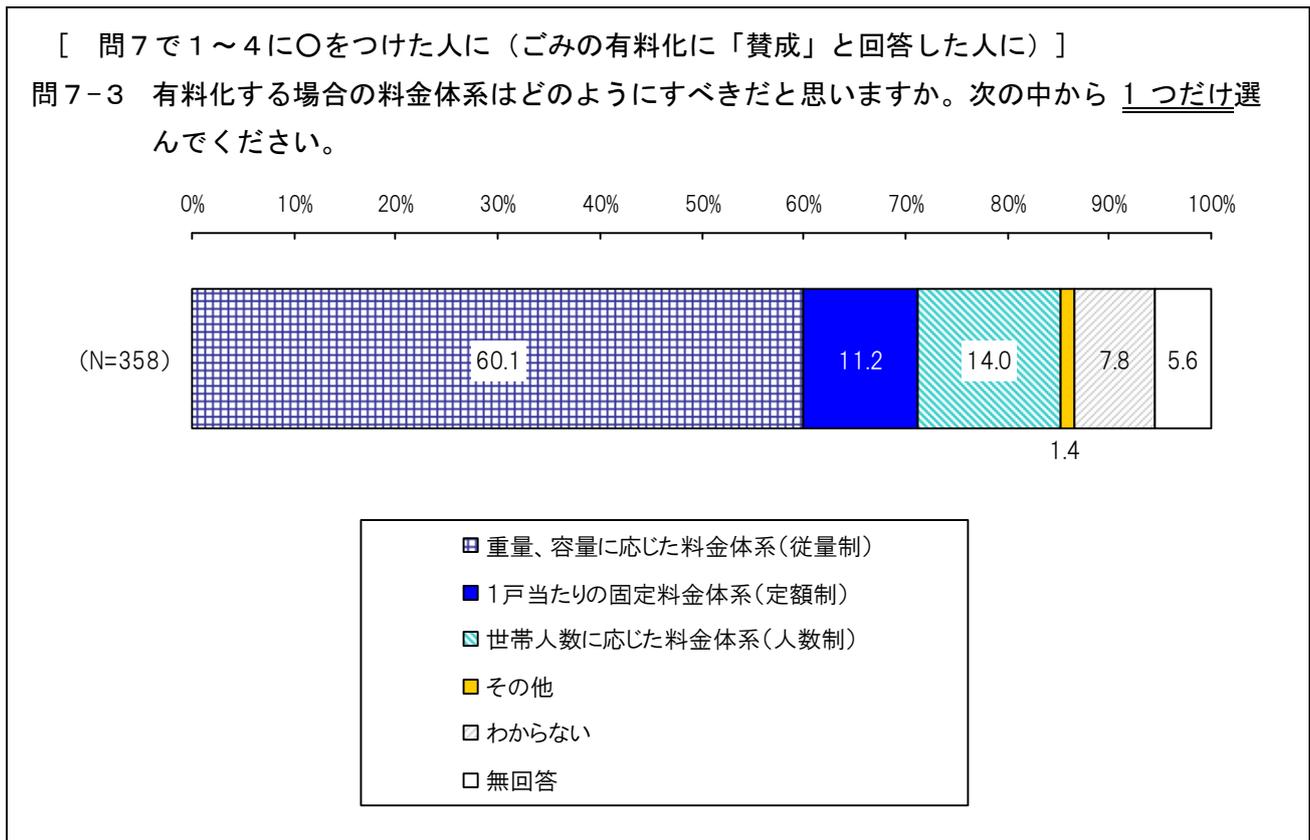
### ＜調査結果の経年比較＞

平成12年の調査結果と比較すると、「原因者（排出者）負担原則に基づき、一定量までは税金で賄うがそれ以上は排出量に応じた料金設定を行う」が37.6%から29.6%とポイントが減少している一方で、「実際のごみ処理に係る経費や有料袋作成費などのコストを総合的に勘案して、その一定部分を負担するという考えに基づき設定する」が22.7%から28.2%に増加している。



- 近隣の市町の料金を参考に、公共料金として均衡性を考慮して設定する
- 全国的な先進事例を参考に、本市と人口規模・都市形態などが類似している都市の料金体系を参考に設定する
- 実際のごみ処理に係る経費や有料袋作成費などのコストを総合的に勘案して、その一定部分を負担するという考えに基づき設定する
- 原因者（排出者）負担原則に基づき、一定量までは税金で賄うがそれ以上は排出量に応じた料金設定を行う
- その他
- わからない
- 無回答

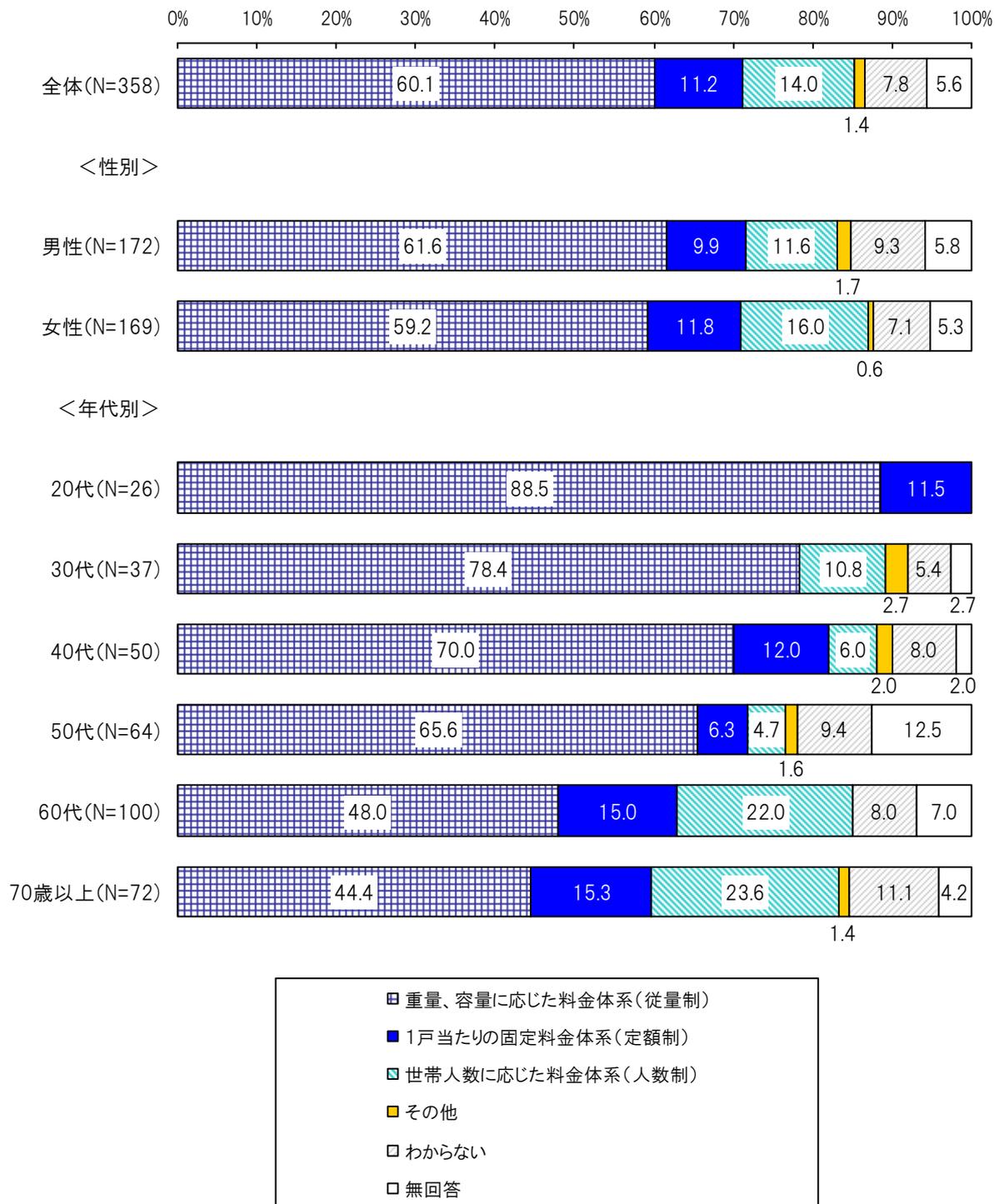
(10) 有料化する場合の料金体系



問7でごみの有料化に対して「賛成」の回答をした人に、有料化する場合の料金体系について尋ねたところ、「重量、容量に応じた料金体系（従量制）」が60.1%と多数となっており、「世帯人数に応じた料金体系（人数制）」が14.0%、「1戸当たりの固定料金体系（定額制）」が11.2%と続く。

年代別でみると、「重量、容量に応じた料金体系（従量制）」を希望する割合は、年代が低くなるにつれて高くなっており、特に40代以下では7割を超える数値となっている。一方、60代以上では「世帯人数に応じた料金体系（人数制）」を推す人の割合が2割以上と高くなっている。

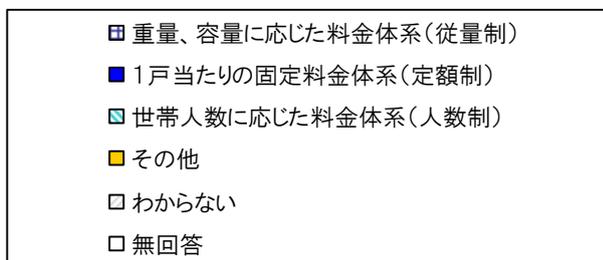
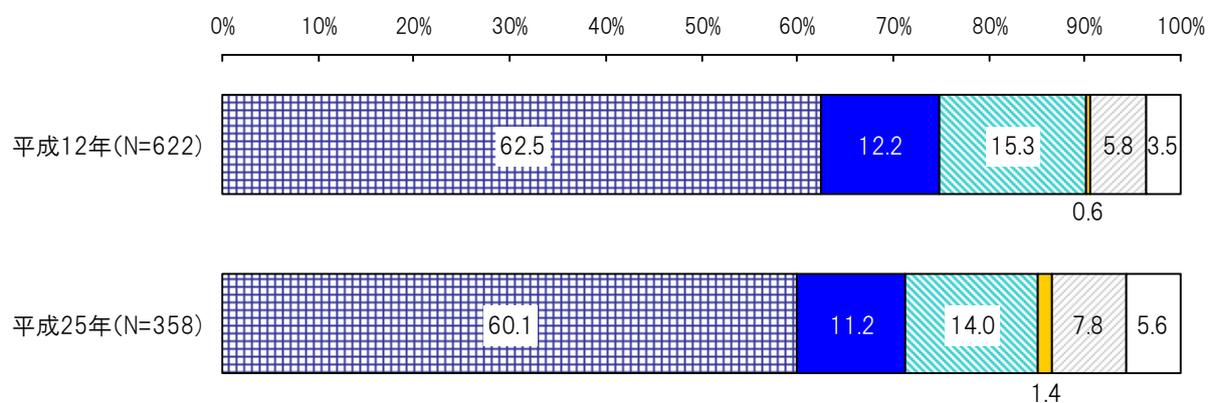
【性別・年代別】



#### IV 調査結果

##### <調査結果の経年比較>

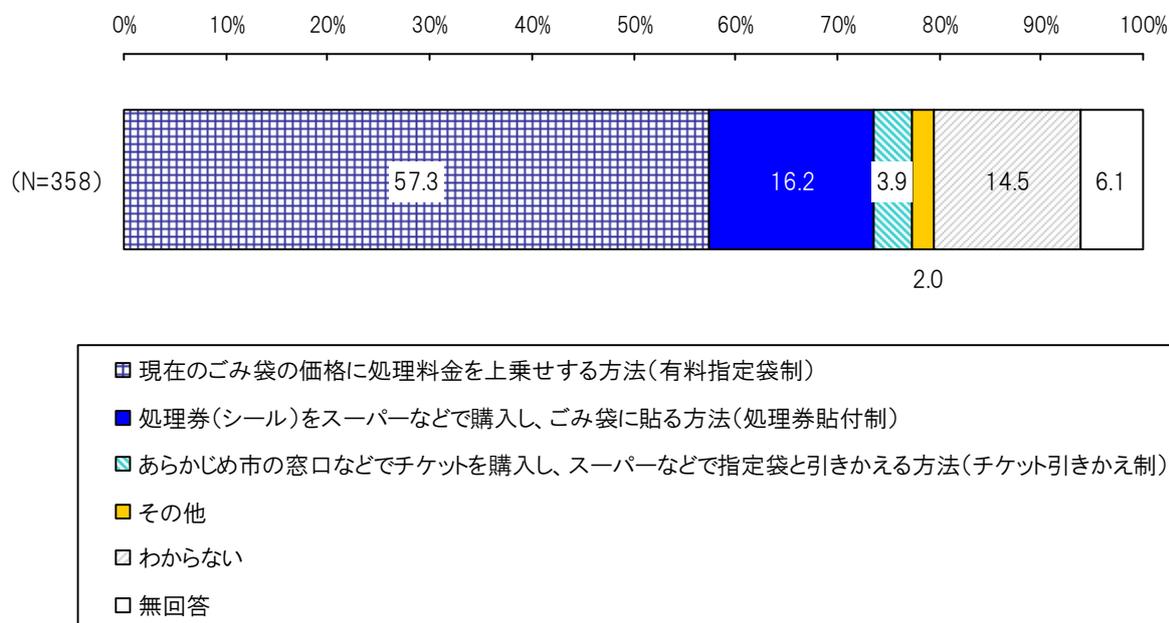
平成12年の調査結果と比較しても、大きな変化はみられない。



## (11) 有料化する場合の料金の徴収方法

[ 問7で1～4に○をつけた人に（ごみの有料化に「賛成」と回答した人に） ]

問7-4 有料化する場合の料金の徴収方法はどのようにすべきだと思いますか。次の中から 1つ だけ選んでください。

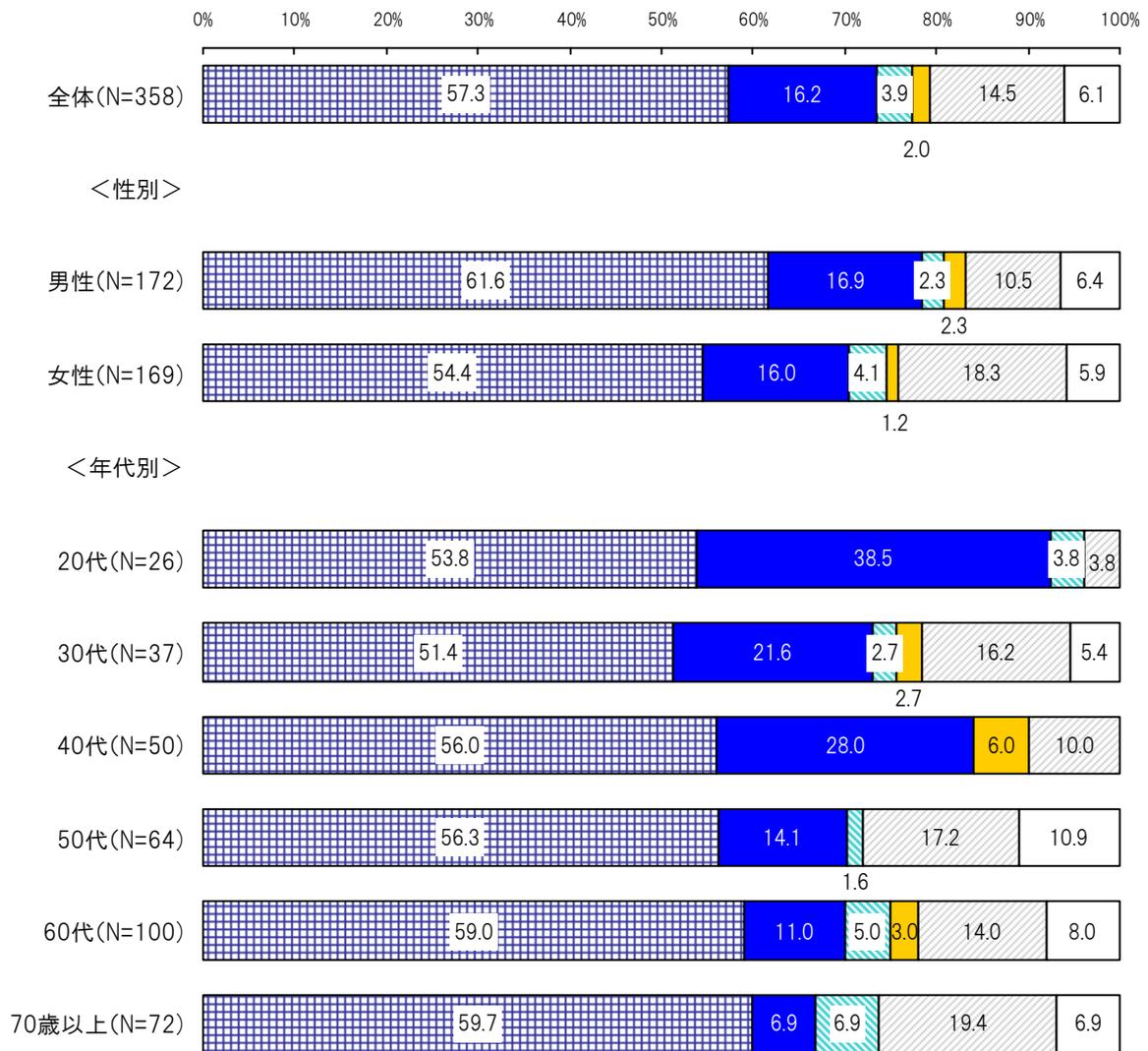


問7でごみの有料化に対して「賛成」の回答をした人に、有料化する場合の料金の徴収方法について尋ねたところ、「現在のごみ袋の価格に処理料金を上乗せする方法（有料指定袋制）」が57.3%と多数を占めている。次いで「処理券（シール）をスーパーなどで購入し、ごみ袋に貼る方法（処理券貼付制）」が16.2%となっており、「あらかじめ市の窓口などでチケットを購入し、スーパーなどで指定袋と引きかえる方法（チケット引きかえ制）」は3.9%と少数である。

年代別でみると、いずれの年代も「現在のごみ袋の価格に処理料金を上乗せする方法（有料指定袋制）」が5割以上となっているが、20～40代では「処理券（シール）をスーパーなどで購入し、ごみ袋に貼る方法（処理券貼付制）」も2割以上と高くなっている。

IV 調査結果

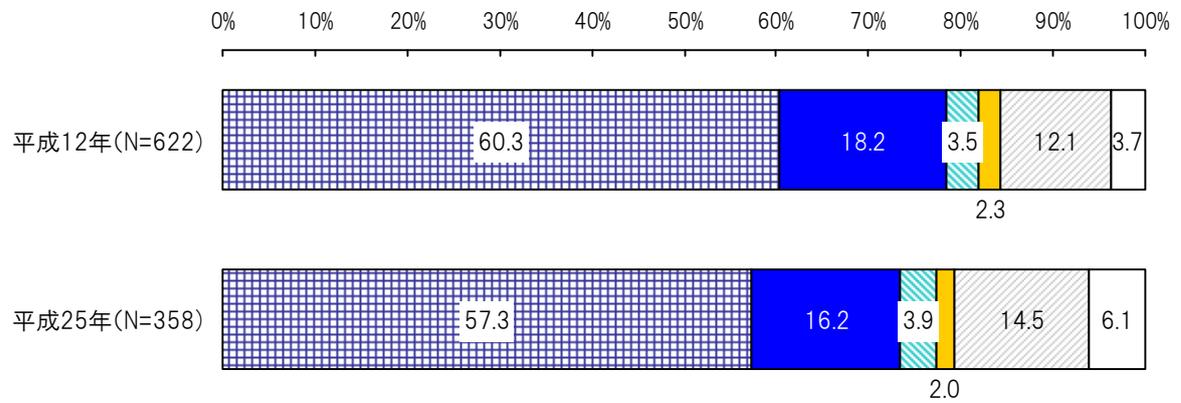
【性別・年代別】



- 現在のごみ袋の価格に処理料金を上乗せする方法(有料指定袋制)
- 処理券(シール)をスーパーなどで購入し、ごみ袋に貼る方法(処理券貼付制)
- あらかじめ市の窓口などでチケットを購入し、スーパーなどで指定袋と引きかえる方法(チケット引きかえ制)
- その他
- わからない
- 無回答

### ＜調査結果の経年比較＞

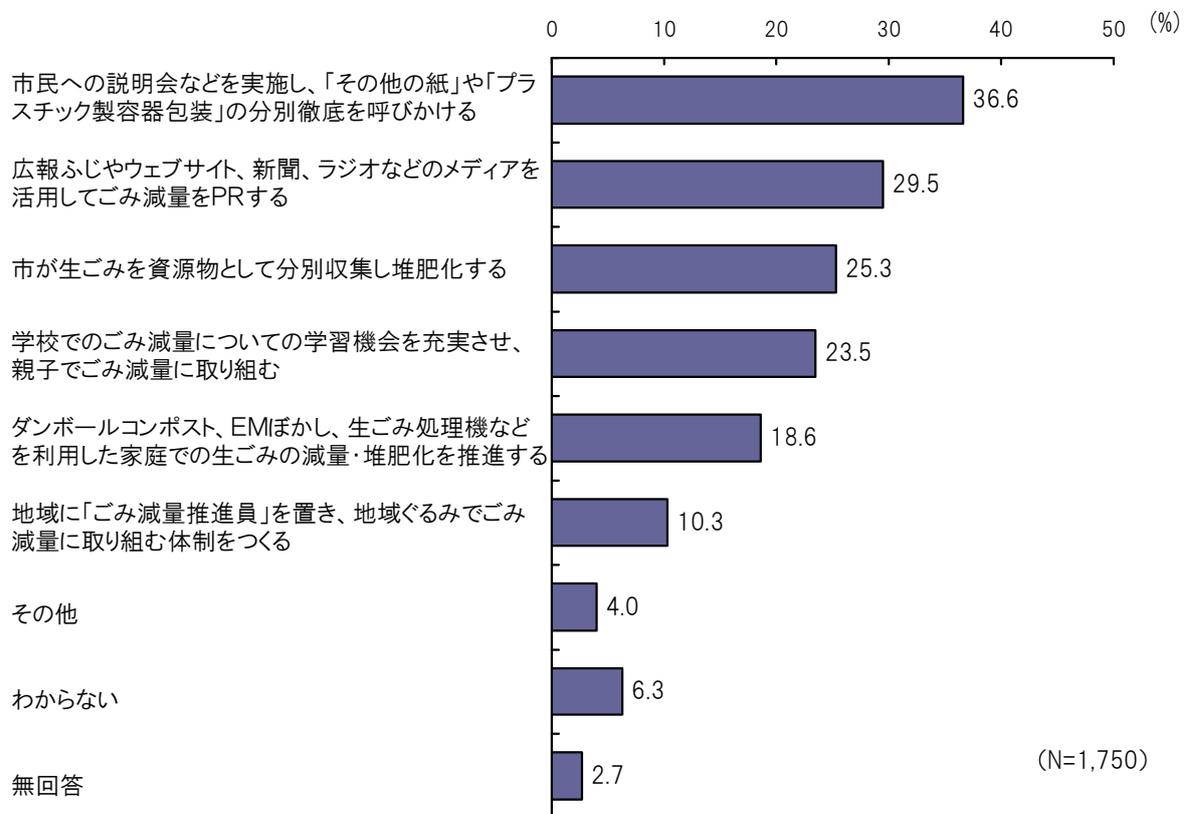
平成12年の調査結果と比較しても、大きな変化はみられない。



- 現在のごみ袋の価格に処理料金を上乗せする方法(有料指定袋制)
- 処理券(シール)をスーパーなどで購入し、ごみ袋に貼る方法(処理券貼付制)
- あらかじめ市の窓口などでチケットを購入し、スーパーなどで指定袋と引きかえる方法(チケット引きかえ制)
- その他
- わからない
- 無回答

## (12) 有料化せずにごみを減量するためには

問8 ごみ処理を有料化せずにごみを減量するには、どのようにすればいいと思いますか。次の中から、あなたの考えに近いものを2つ以内で選んでください。(M. A.)



有料化せずにごみを減量するための考えを尋ねたところ、「市民への説明会などを実施し、『その他の紙』や『プラスチック製容器包装』の分別徹底を呼びかける」が36.6%で最も高く、次いで「広報ふじやウェブサイト、新聞、ラジオなどのメディアを活用してごみ減量をPRする」が29.5%、「市が生ごみを資源物として分別収集し堆肥化する」が25.3%と続く。

年代別でみると、20代では「広報ふじやウェブサイト、新聞、ラジオなどのメディアを活用してごみ減量をPRする」が30.6%で最も高く、また30代においては「学校でのごみ減量についての学習機会を充実させ、親子でごみ減量に取り組む」、「広報ふじやウェブサイト、新聞、ラジオなどのメディアを活用してごみ減量をPRする」が「市民への説明会の実施～」を上回る数値となっている。

【性別・年代別】

